

群馬県の現状

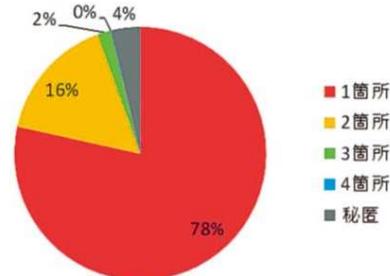
平成21年～平成25年における群馬県内の観光入込客数は約6,000万人であり、この5年間でほぼ横ばいとなっています。

今後、首都圏三環状道路や成田空港、羽田空港、京浜港など主要空港・港湾等の機能強化とアクセス道等の整備、リニア中央新幹線や北陸新幹線の延伸などが進む中で、本県の交通結節性の高さを活かして、観光客等の県内誘客が求められています。

県民の声

○観光振興のため、周遊できる道路ネットワークを整備を望む声が挙げられています。

○県への観光客の4人に3人は立ち寄る観光施設が1箇所のみとなっております。



「混雑統計*」©ZENRIN DataComCO., LTD.

ビックデータの活用による県内の主要観光地の立ち寄り数

課題

交通の円滑化を図り、広域的な周遊観光ルート等を支援する道路整備を推進する必要があります。

目的

都市や交通結節点、観光地等を結ぶ道路整備を行い、地域間交流・物流の促進を図り、観光振興の支援を行います。

事業の指標

指標 アクセス・連携機能の向上により産業振興や交通促進等が図られる観光施設や産業団地等の拠点数の増加

Σ（アクセス・連絡機能向上により産業振興や交流促進が図られる観光施設や産業団地等の拠点数）（単位：箇所）

成果と達成度報告

交通に便利な観光施設、
アクセス性が向上した鉄道駅と道の駅、
産業団地等が
30箇所増えました！

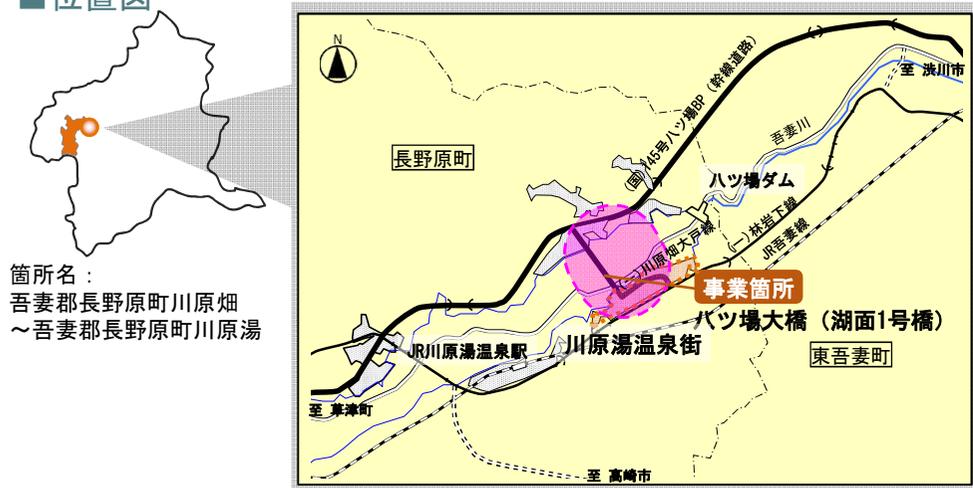
指標：アクセス・連絡機能向上により産業振興や交流促進が図られる観光施設や産業団地の拠点数の増加

	目標	実績	増減
当初値（H25当初）			
中間値（H27末）	14箇所	7箇所	7箇所の施設のアクセス性が向上
目標値（H29末）	29箇所	30箇所	30箇所の施設のアクセス性が向上

整備効果事例

事例① 県道川原畑大戸線 湖面1号橋工区

■位置図



■整備効果

整備前



ダム湖によって幹線道路と川原湯温泉街が分断されてしまっている

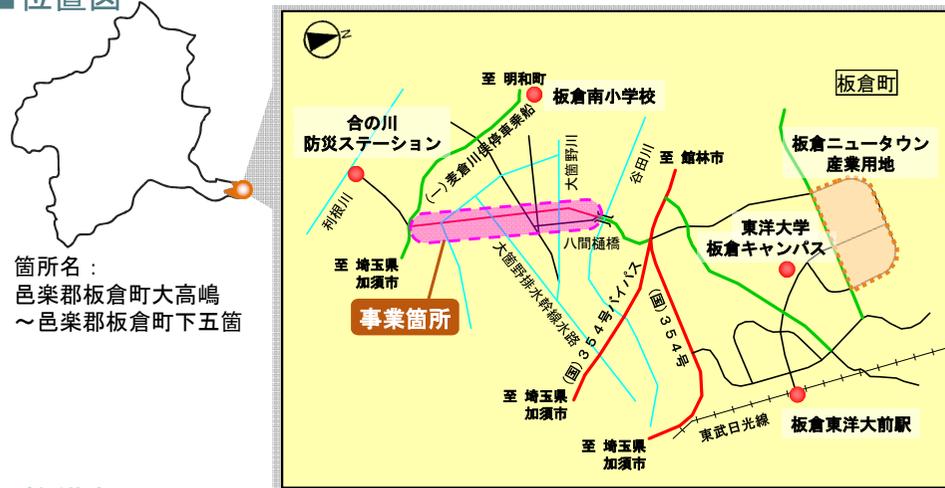
整備後



湖面1号橋を整備することで幹線道路から温泉街へのアクセスが向上

事例② 町道1級9号線 道路拡幅

■位置図



■整備効果

整備前



歩道・自転車道がなく交錯の危険性が高く乗用車のすれ違いが困難な状況

整備後



2車線化で円滑で快適な空間を確保！車道と歩道を分け、歩行者の安全を確保